



LDAPディレクトリからユーザをインポート

- [LDAP 同期の概要, 1 ページ](#)
- [LDAP 同期の前提条件, 3 ページ](#)
- [LDAP 同期設定のタスク フロー, 4 ページ](#)

LDAP 同期の概要

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) の同期は、システムのエンドユーザのプロビジョニングと設定を支援します。LDAP の同期中、システムは外部 LDAP ディレクトリから Cisco Unified Communications Manager データベースにユーザのリストと関連するユーザデータをインポートします。インポートしている間に、エンドユーザを設定することもできます。また、定期的な同期スケジュールを設定すれば、従業員のデータの変更を漏らさず記録できます。

エンドユーザのインポート

LDAP 同期を使用して、システムの初期設定時にユーザー一覧を会社の LDAP ディレクトリから Cisco Unified Communications Manager のデータベースにインポートできます。LDAP 同期プロセスは、ユーザーの一覧、電話番号や電子メールアドレスなどのユーザー独自のデータをインポートし、[エンドユーザ設定 (End User Configuration)] ウィンドウの対応するフィールドに保存します。

LDAP インポートを LDAP ディレクトリからのユーザのサブセットに制限するには、LDAP フィルタを LDAP 同期に設定して適用できます。

インポートしたエンドユーザの設定

アクセス制御グループ、クレデンシャルポリシー、機能グループのテンプレートなどの項目を設定済みの場合は、ユーザのインポート中に、インポートされたエンドユーザを設定することもできます。[LDAP ディレクトリ設定 (LDAP Directory Configuration)] ウィンドウを使用して、エンドユーザの次の項目を設定できます。Cisco Unified Communications Manager では、同期中に、インポートされたエンドユーザにこれらの設定を割り当てます。たとえば、エンドユーザに次の項目を指定できます。

- エンドユーザをアクセス制御ループに指定する

- デフォルトのクレデンシャル ポリシーを指定する
- ユニバーサル回線のテンプレートをユーザのプライマリ エクステンションに指定する
- ユーザの電話に適用されるユニバーサル デバイス テンプレートを指定する
- プライマリ エクステンションを指定する
- ユーザが自分の電話機のプロビジョニングをできるようにする

エンドユーザに設定を適用するときには、LDAP フィルタを使用して、特定の要件を満たすエンドユーザにのみエンドユーザの設定が適用されることを確認します。同じ条件を満たすその他のエンドユーザ向けに、Cisco Unified Communications Manager で追加の LDAP ディレクトリを設定をセットアップできます。

スケジュールされた更新

Cisco Unified Communications Manager をスケジュールされた間隔で複数の LDAP ディレクトリと同期するように設定できます。これによって確実に、データベースが定期的に更新され、すべてのユーザデータが最新になるようにすることができます。たとえば、同期スケジュールをセットアップし、会社の LDAP ディレクトリの電話番号を更新すると、スケジュールされた次の LDAP 同期が発生したとき、その更新は自動的に Cisco Unified Communications Manager に反映されます。従業員のデータを制御し、更新する単一のリポジトリを作成することにより、同期スケジュールで企業ネットワークを継続的に管理できます。

[エンドユーザ用LDAP認証 (LDAP Authentication for End Users)]

LDAP 同期を使用して、システムが Cisco Unified Communications Manager データベースではなく、LDAP ディレクトリに対してエンドユーザ パスワードを認証するように設定できます。LDAP 認証によって、企業は、すべての企業内アプリケーションに対応する単一のパスワードをエンドユーザに割り当てることができます。この機能は、PIN またはアプリケーションユーザパスワードには適用されません。

Cisco Mobile およびリモート アクセス クライアントとエンドポイントのディレクトリ サーバユーザ検索

以前のリリースでは、Cisco Mobile とリモート アクセス クライアント（たとえば、Cisco Jabber）またはエンドポイント（たとえば、Cisco DX 80 電話）を使用しているユーザが企業ファイアウォールの外部でユーザ検索を実行した場合、結果は Cisco Unified Communications Manager に保存されたユーザアカウントに基づいていました。データベースには、ローカルで設定されたか、または社内ディレクトリから同期されたユーザアカウントも含まれています。

このリリースでは、Cisco Mobile およびリモート アクセス クライアントとエンドポイントは、企業ファイアウォールの外部で動作している場合でも、社内ディレクトリ サーバを検索できます。この機能を有効にすると、ユーザデータ サービス (UDS) がプロキシとして機能し、Cisco Unified

Communications Manager データベースにユーザ検索要求を送信する代わりに、それを社内ディレクトリに送信します。

この機能を使用して、次の結果を実現できます。

- 地理的な場所に関係なく、同じユーザ検索結果を提供する：モバイルおよびリモートアクセスクライアントとエンドポイントは、社内ディレクトリを使用してユーザ検索を実行できます。企業ファイアウォールの外部で接続されている場合でも実行可能です。
- Cisco Unified Communications Manager データベースに設定されるユーザアカウントの数を削減する：モバイルクライアントは、社内ディレクトリ内のユーザを検索できます。以前のリリースでは、ユーザ検索結果はデータベースに設定されているユーザに基づいていました。今回のリリースでは、ユーザ検索のためだけにユーザアカウントをデータベースに設定または同期する必要がなくなりました。管理者は、クラスタによって管理されているユーザアカウントを設定すれば作業が完了します。データベース内のユーザアカウントの合計数が削減すると、データベース全体のパフォーマンスが改善される一方、ソフトウェアアップグレードの時間枠が短縮されます。

この機能を設定するには、[LDAP 検索の設定 (LDAP Search Configuration)] ウィンドウで [企業ディレクトリ サーバでのユーザ検索を有効にする (Enable user search to Enterprise Directory Server)] オプションを有効にし、LDAP ディレクトリ サーバの詳細を設定する必要があります。詳細については、[エンタープライズディレクトリ ユーザ検索の設定, \(9 ページ\)](#) の手順を参照してください。

LDAP 同期の前提条件

前提条件のタスク

LDAP ディレクトリからエンドユーザをインポートする前に、次のタスクを実行します。

- [ユーザアクセス設定のタスクフロー](#)
- [クレデンシャルポリシーの設定タスクフロー](#)
- [機能グループテンプレートの設定](#)

自分のシステムにデータを同期するユーザについて、アクティブディレクトリサーバ上の電子メール ID フィールドが確実に単一エントリまたは空白になっているようにします。

サポートされる LDAP ディレクトリ

Cisco Unified Communications Manager では、次の LDAP ディレクトリとの同期をサポートしています。

- Microsoft Active Directory 2003 R1/R2 (32 ビット)
- Microsoft Active Directory 2008 R1 (32 ビット) /R2 (64 ビット)
- Microsoft Active Directory アプリケーションモード 2003 R1/R2 (32 ビット)

- Microsoft Active Directory 2012
- Microsoft Lightweight Directory Services 2008 R1 (32 ビット) /R2 (64 ビット)
- Microsoft Lightweight Directory Services 2012
- Sun ONE Directory Server 7.0
- LDAP 2.3.39 を開きます
- LDAP 2.4 を開きます
- Oracle Directory Server Enterprise Edition 11gR1
- 他の LDAPv3 対応ディレクトリ

LDAP 同期設定のタスク フロー

企業 LDAP ディレクトリと Cisco Unified Communications Manager データベースを同期するには、次のタスクを実行します。LDAP 同期により、外部 LDAP ディレクトリからユーザリストをプルし、Cisco Unified Communications Manager のデータベースにインポートできます。このプロセスは、管理者が初めてセットアップする時にエンドユーザをプロビジョニングするのに役立ちます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Cisco DirSync サービスの有効化, (5 ページ)	Cisco Unified Serviceability にログインし、Cisco DirSync サービスを有効にします。
ステップ 2	LDAP ディレクトリの同期化の有効化, (6 ページ)	シスコの LDAP ディレクトリ同期を Cisco Unified Communications Manager を有効化します。
ステップ 3	LDAP フィルタの作成, (6 ページ)	これはオプションです。Cisco Unified Communications Manager に社内 LDAP ディレクトリからユーザのサブセットだけを同期するには、LDAP フィルタを作成します。たとえば、特定のアクセス制御グループに属するユーザ、または特定のユーザプロファイルを使用するユーザだけをインポートするフィルタを作成できます。
ステップ 4	LDAP ディレクトリの同期の設定, (7 ページ)	アクセスコントロールグループ、機能グループのテンプレートとプライマリ エクステンションのフィールド設定、LDAP サーバの場所、同期スケジュール、および割り当てなどの LDAP ディレクトリ同期を設定します。
ステップ 5	エンタープライズディレクトリ ユーザ検索の設定, (9 ページ)	これはオプションです。エンタープライズディレクトリ サーバユーザを検索するシステムを設定します。システムの電話機とクライアントをデータベースの代わ

	コマンドまたはアクション	目的
		りにエンタープライズディレクトリ サーバに対してユーザの検索を実行するように設定するには、次の手順に従います。
ステップ 6	LDAP 認証の設定, (11 ページ)	これはオプションです。エンドユーザのパスワード認証に LDAP ディレクトリを使用するには、LDAP 認証を設定します。
ステップ 7	LDAP アグリーメント サービス パラメータのカスタマイズ, (12 ページ)	これはオプションです。LDAP 同期サービス パラメータを設定します。ほとんどの導入には、デフォルト値で十分です。ただし、次の値を再設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • LDAP 同期アグリーメントの最大数 • フェールオーバーの LDAP のホスト名の最大数 • ホストの障害または hostlist の失敗の遅延タイマー • 接続タイムアウト • LDAP 同期の遅延
ステップ 8	LDAP同期済みユーザのローカル ユーザへの変換, (14 ページ)	これはオプションです。LDAP 属性と同期されるエンドユーザ設定を更新する必要があり、LDAP ディレクトリのフィールドを使用しないのであれば、LDAP ユーザをローカル ユーザに変換します。

Cisco DirSync サービスの有効化

Cisco DirSync サービスをアクティブにするには、Cisco Unified Serviceability で次の手順を実行します。社内 LDAP ディレクトリでエンドユーザの設定を同期するには、このサービスをアクティブにする必要があります。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスの有効化 (Service Activation)] を選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスからパブリッシャ ノードを選択します。
- ステップ 3 [ディレクトリ サービス (Directory Services)] の下の [Cisco DirSync] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

[LDAP ディレクトリの同期化の有効化, \(6 ページ\)](#)

LDAP ディレクトリの同期化の有効化

エンドユーザの設定を社内 LDAP ディレクトリから同期するように Cisco Unified Communications Manager を設定するには、次の手順を実行します。

はじめる前に

[Cisco DirSync サービスの有効化, \(5 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAPシステム (LDAP System)] を選択します。
 - ステップ 2 Cisco Unified Communications Manager で、LDAP ディレクトリからユーザをインポートするには、[LDAPサーバからの同期を有効にする (Enable Synchronizing from LDAP Server)] チェックボックスをオンにします。
 - ステップ 3 [LDAPサーバタイプ (LDAP Server Type)] ドロップダウンリストボックスから、会社が使用する LDAP ディレクトリ サーバのタイプを選択します。
 - ステップ 4 [ユーザ ID の LDAP 属性 (LDAP Attribute for User ID)] ドロップダウンリストボックスから、[エンドユーザ設定 (End User Configuration)] の [ユーザ ID (User ID)] フィールドの値について、Cisco Unified Communications Manager を同期させる社内 LDAP ディレクトリの属性を選択します。
 - ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

次のいずれかの手順を実行します。

- [LDAP フィルタの作成, \(6 ページ\)](#) LDAP 同期をユーザのサブセットに制限する場合
- [LDAP ディレクトリの同期の設定, \(7 ページ\)](#) LDAP ディレクトリの設定

LDAP フィルタの作成

LDAP フィルタを作成して LDAP 同期を LDAP ディレクトリのユーザのサブネットに制限する場合は、このオプションの手順を実行します。LDAP フィルタを LDAP ディレクトリに適用する場合、Cisco Unified Communications Manager は、フィルタに一致するユーザのみを LDAP ディレクトリからインポートします。

LDAP フィルタを設定する場合は、RFC4515 に指定されている LDAP 検索フィルタ標準に準拠する必要があります。

はじめる前に

[LDAP ディレクトリの同期化の有効化, \(6 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[システム (System)] > [LDAP(LDAP)] > [LDAP フィルタ (LDAP Filter)] を選択します。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しい LDAP フィルタを作成します。
- ステップ 3 [フィルタ名 (Filter Name)] テキスト ボックスに、LDAP フィルタの名前を入力します。
- ステップ 4 [フィルタ (Filter)] テキスト ボックスに、フィルタを入力します。フィルタは、UTF-8 で最大 1024 文字まで入力できます。また、丸カッコ (()) で囲みます。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

[LDAP ディレクトリの同期の設定, \(7 ページ\)](#) に移動して、LDAP フィルタを LDAP ディレクトリに適用します。

LDAP ディレクトリの同期の設定

LDAP ディレクトリと同期するよう Cisco Unified Communications Manager を設定するには、次の手順を使用します。LDAP ディレクトリの同期により、エンドユーザのデータを外部の LDAP ディレクトリから Cisco Unified Communications Manager データベースにインポートして、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウに表示できます。定期的に LDAP ディレクトリの更新が Cisco Unified Communications Manager に伝達されるよう、同期スケジュールをセットアップできます。

また、アクセス コントロール グループ、機能グループ テンプレート、ユニバーサル回線やユニバーサル デバイス テンプレートをすでに計画済みの場合は、アクセス コントロール グループ、プライマリ内線番号、セルフプロビジョニング機能により、インポートしたエンドユーザを即座に設定できます。



ヒント

アクセス コントロールグループまたは機能グループテンプレートを割り当てる場合は、LDAP フィルタを使用して、インポートを同じ設定要件のユーザグループに限定できます。

はじめる前に

- [LDAP ディレクトリの同期化の有効化, \(6 ページ\)](#)
- [LDAP フィルタの作成, \(6 ページ\)](#) LDAP の同期をユーザのサブセットに限定する場合。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [LDAP (LADP)] > [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- [検索 (Find)] をクリックし、既存の LDAP ディレクトリを選択します。
 - [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しい LDAP ディレクトリを作成します。
- ステップ 3** [LDAP ディレクトリの設定 (LDAP Directory Configuration)] ウィンドウの各フィールドに入力します。フィールドとその説明を含むヘルプは、オンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ 4** [LDAP 構成名 (LDAP Configuration Name)] テキスト ボックスで、LDAP ディレクトリの一意の名前を指定します。
- ステップ 5** [LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)] フィールドに、LDAP ディレクトリ サーバにアクセスできるユーザ ID を入力します。
- ステップ 6** パスワードの詳細を入力し、確認します。
- ステップ 7** これはオプションです。インポートを特定のプロファイルに適合するユーザのサブセットにのみ限定する場合は、[LDAP カスタム フィルタ (LDAP Custom Filter)] ドロップダウン リスト ボックスから、LDAP フィルタを選択します。
- ステップ 8** [LDAP ディレクトリ同期スケジュール (LDAP Directory Synchronization Schedule)] フィールドに、外部 LDAP ディレクトリとデータ同期を行うために Cisco Unified Communications Manager が使用するスケジュールを作成します。
- ステップ 9** [同期対象の標準ユーザ フィールド (Standard User Fields To Be Synchronized)] セクションを記入します。各エンドユーザのフィールドで、それぞれ LDAP 属性を選択します。同期プロセスは LDAP 属性の値を Cisco Unified Communications Manager のエンドユーザ フィールドに割り当てます。
- ステップ 10** インポートしたエンドユーザを、インポートしたすべてのエンドユーザに共通するアクセス コントロール グループに割り当てるには、次の手順を実行します。
- a) [アクセス コントロール グループに追加 (Add to Access Control Group)] をクリックします。
 - b) ポップアップウィンドウで、インポートしたユーザに割り当てるアクセスコントロールグループごとに、対応するチェックボックスをオンにします。
 - c) [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
- ステップ 11** 機能グループ テンプレートを割り当てる場合は、[機能グループ テンプレート (Feature Group Template)] ドロップダウン リスト ボックスからテンプレートを選択します。機能グループ テンプレートに関連付けられているユーザプロファイル、サービスプロファイル、ユニバーサル回線やユニバーサル デバイス テンプレート、およびセルフプロビジョニング設定は、同期されたエンドユーザに関連付けられます。

(注) ユーザが存在しない初回のみ、エンドユーザは割り当てられた [機能グループ テンプレート (Feature Group Template)] と同期されます。既存の [機能グループ テンプレート (Feature Group Template)] が変更され、関連付けられた LDAP の完全同期が実行される場合、変更点は更新されません。

- ステップ 12** インポートされた電話番号にマスクを適用して、プライマリ内線番号を割り当てるには、次の手順を実行します。
- [同期された電話番号にマスクを適用して、挿入されたユーザの新しい回線を作成 (Apply Mask to synced telephone numbers to create a new line for inserted users)] チェック ボックスをオンにします。
 - [マスク (Mask)] を入力します。たとえば、インポートされた電話番号が 8889945 である場合、11XX のマスクは、1145 のプライマリ内線番号を作成します。
- ステップ 13** 電話番号のプールからプライマリ内線番号を割り当てる場合は、次の手順を実行します。
- [同期された LDAP 電話番号に基づいて作成されなかった場合、プール リストから新しい回線を割り当て (Assign new line from the pool list if one was not created based on a synced LDAP telephone number)] チェック ボックスをオンにします。
 - [DN プールの開始 (DN Pool Start)] テキスト ボックスと [DN プールの終了 (DN Pool End)] テキスト ボックスに、プライマリ内線番号を選択する電話番号の範囲を入力します。
- ステップ 14** [LDAP サーバ情報 (LDAP Server Information)] エリアで、LDAP サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 15** SSL を使用して LDAP サーバへのセキュアな接続を作成する場合は、[SSL を使用 (Use SSL)] チェック ボックスをオンにします。
- ステップ 16** [保存 (Save)] をクリックします。

次の作業

[LDAP 認証の設定, \(11 ページ\)](#)

エンタープライズ ディレクトリ ユーザ検索の設定

データベースではなくエンタープライズディレクトリサーバに対してユーザ検索を実行するように、システムの電話機とクライアントを設定するには、次の手順を使用します。

はじめる前に

- LDAP ユーザ検索に選択するプライマリ、セカンダリ、および第 3 サーバが Cisco Unified Communications Manager のサブスクリバノードに到達可能なネットワークにあることを確認します。
- [システム (System)] > [LDAP] > [LDAPシステム (LDAP System)] を選択し、[LDAPシステムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウの [LDAP サーバタイプ (LDAP Server Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、LDAP サーバのタイプを設定します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP 検索 (LDAP Search)] を選択します。
- ステップ 2** エンタープライズ LDAP ディレクトリ サーバを使用してユーザ検索を実行するには、[エンタープライズ ディレクトリ サーバのユーザ検索を有効にする (Enable user search to Enterprise Directory Server)] チェックボックスをオンにします。
このウィンドウのフィールドはすべて有効です。
- ステップ 3** [LDAP 検索の設定 (LDAP Search Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドとその設定オプションの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

ディレクトリ サーバの UDS 検索用の LDAP 属性

次の表に、[エンタープライズディレクトリサーバに対するユーザ検索を有効化 (Enable user search to Enterprise Directory Server)] オプションが有効になっている場合に、UDS ユーザ検索要求で使用される LDAP 属性の一覧を示します。このようなタイプのディレクトリ要求の場合、UDS はプロキシとして機能して、社内ディレクトリサーバに検索要求をリレーします。



- (注) UDS ユーザの応答タグは、いずれかの LDAP 属性にマッピングされることがあります。属性のマッピングは、[LDAP サーバタイプ (LDAP Server Type)] ドロップダウンリストから選択するオプションによって決まります。このドロップダウンリストには、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP システムの設定 (LDAP System Configuration)] ウィンドウからアクセスします。

UDS ユーザの応答タグ	LDAP 属性
userName	<ul style="list-style-type: none"> • samAccountName • uid
firstName	givenName
lastName	sn
middleName	<ul style="list-style-type: none"> • initials • middleName
nickName	nickName

UDS ユーザの応答タグ	LDAP 属性
displayName	displayName
phoneNumber	<ul style="list-style-type: none"> • telephonenumber • ipPhone
homeNumber	homephone
mobileNumber	mobile
email	メール アドレス
directoryUri	<ul style="list-style-type: none"> • msRTCSIP-primaryuseraddress • メール アドレス
部署	<ul style="list-style-type: none"> • 部署 • departmentNumber
manager	manager
タイトル	タイトル
ポケットベル	ポケットベル

LDAP 認証の設定

LDAP 認証を有効にして、会社の LDAP ディレクトリに割り当てられているパスワードに対してエンドユーザのパスワードが認証されるようにするには、この手順を実行します。LDAP 認証により、システム管理者は会社のすべてのアプリケーションに対してエンドユーザの 1 つのパスワードを割り当てることができます。この設定は、エンドユーザのパスワードにのみ適用され、エンドユーザの PIN またはアプリケーションユーザのパスワードには適用されません。

はじめる前に

[LDAP ディレクトリの同期の設定](#), (7 ページ)

手順

-
- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP 認証 (LDAP Authentication)] を選択します。
- ステップ 2** [エンドユーザ用 LDAP 認証の使用 (Use LDAP Authentication for End Users)] チェックボックスをオンにして、ユーザ認証に LDAP ディレクトリを使用します。
- ステップ 3** [LDAP マネージャ識別名 (LDAP Manager Distinguished Name)] フィールドに、LDAP ディレクトリにアクセス権がある LDAP マネージャのユーザ ID を入力します。
- ステップ 4** [パスワード (Password)] フィールドに、LDAP マネージャのパスワードを入力します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
-

次の作業

[LDAP アグリーメント サービス パラメータのカスタマイズ, \(12 ページ\)](#)

LDAP アグリーメント サービス パラメータのカスタマイズ

LDAP アグリーメントのシステム レベル設定をカスタマイズするサービスパラメータを設定するには、次の手順を実行します。これらのサービスパラメータを設定しない場合、Cisco Unified Communications Manager により、LDAP ディレクトリ統合のデフォルト設定が適用されます。

サービスパラメータを使用して次の設定をカスタマイズできます。

- LDAP アグリーメントの最大数
- ホストの最大数
- ホストまたはホストリスト失敗時の再試行間隔
- 接続タイムアウト
- LDAP 同期の開始間隔

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスからパブリッシャ ノードを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] ドロップダウン リスト ボックスから、[Cisco DirSync] を選択します。
- ステップ 4** Cisco DirSync サービス パラメータの値を設定します。サービス パラメータの説明については、「関連項目」を参照してください。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

関連トピック

[LDAP ディレクトリ サービスのパラメータ, \(13 ページ\)](#)

LDAP ディレクトリ サービスのパラメータ

サービス パラメータ	説明
Maximum Number of Agreements	自分で設定できる LDAP ディレクトリの最大数。デフォルト設定は 20 です。
Maximum Number of Hosts	フェールオーバー用に設定できる LDAP ホスト名の最大数。デフォルト値は 3 です。
Retry Delay on Host Failure (secs)	ホストで障害が発生した後、Cisco Unified Communications Manager が最初の LDAP サーバ (ホスト名) への接続を再試行する前の遅延秒数です。デフォルト値は 5 です。
Retry Delay on HostList Failure (mins)	ホスト リストで障害が発生した後、Cisco Unified Communications Manager が設定された各 LDAP サーバ (ホスト名) への接続を再試行する前の遅延分数です。デフォルトは 10 です。
LDAP Connection Timeout (secs)	Cisco Unified Communications Manager が LDAP 接続を確立できる秒数です。指定した時間内に接続を確立できない場合、LDAP サービス プロバイダーは接続試行を中止します。デフォルトは 5 です。
Delayed Sync Start Time (mins)	Cisco DirSync サービスの起動後に、Cisco Unified Communications Manager がディレクトリ同期プロセスを開始するまでの遅延分数です。デフォルトは 5 です。

LDAP同期済みユーザのローカルユーザへの変換

LDAP ディレクトリと Cisco Unified Communications Manager を同期すると、LDAP に同期されたエンドユーザについては、ローカルユーザに変換しないかぎり、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウ内のフィールドは編集できません。

[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで LDAP 同期ユーザのフィールドを編集するには、そのユーザをローカルユーザに変換します。ただし、この変換を行うと、Cisco Unified Communications Manager を LDAP ディレクトリと同期したときにエンドユーザが更新されなくなります。

手順

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[エンドユーザ (End Users)] > [エンドユーザ管理 (End User Management)] を選択します。
 - ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックして、エンドユーザを選択します。
 - ステップ 3 [ローカルユーザへの変換 (Convert to Local User)] ボタンをクリックします。
 - ステップ 4 [エンドユーザ設定 (End User Configuration)] ウィンドウでフィールドを更新します。
 - ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
-

アクセスコントロールグループへの LDAP 同期ユーザの割り当て

LDAP と同期するユーザをアクセスコントロールグループに割り当てるには、次の手順を実行します。

はじめる前に

エンドユーザと外部 LDAP ディレクトリが同期されるように Cisco Unified Communications Manager を設定する必要があります。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[システム (System)] > [LDAP (LADP)] > [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)] を選択します。
 - ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックし、設定した LDAP ディレクトリを選択します。
 - ステップ 3 [アクセスコントロールグループに追加 (Add to Access Control Group)] ボタンをクリックします。
 - ステップ 4 この LDAP ディレクトリのエンドユーザに適用するアクセスコントロールグループを選択します。
 - ステップ 5 [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
 - ステップ 6 [Save] をクリックします。
 - ステップ 7 [完全同期を実施 (Perform Full Sync)] をクリックします。
Cisco Unified Communications Manager が外部 LDAP ディレクトリと同期し、同期したユーザが正しいアクセスコントロールグループに挿入されます。
(注) 同期したユーザは、アクセスコントロールグループを初めて追加した時にのみ、選択したアクセスグループに挿入されます。完全同期の実行後に LDAP に追加するグループは、同期したユーザに適用されません。
-

